

令和2年度 グーフィークラブ事業報告

1. 概要

①運営報告

- 近隣の小学校に入学する児童は減少の傾向もありますが登録者数は計画通り25名に達しましたが、新型コロナウイルス感染症により自粛する家庭が増えたこともあり利用者数は大幅に減少しました。
- 6年生のリーダーを中心に活動する中で少人数でも子ども主体の活動ができる環境づくりを心掛けました。
- 園内の年長児との交流会を定期的に行い、園児の就学に対する意識づけのサポートをする役割を担うことでクラブの子どもたち自身も成長を感じ、自信が持てるような活動を行いました。
- 感染症防止策をクラス内でも徹底し、部屋の消毒、各自の手洗い、うがい、手指消毒、マスク着用、1日数回の検温、特に飲食の際は1テーブルに一人で座る、常に窓を開け換気をするなど防止対策を行いました。

②定員 25名

- 平日の利用より学校の長期休みの利用の希望者が増えてきているので保護者の要望に耳を傾けながらニーズに沿えるように運営を行いました。

③事業日数 290日 (日曜、祝日、園行事の日、12/30～1/4は休園)

④開所時間

- 平日 8:30～18:00 (延長は7:00～8:30・18:00～19:00)
- 土曜 8:30～17:00 (延長は7:00～8:30・17:00～18:30)

⑤職員数 指導員 1名 (保育士資格有)

2. 事業運営

①教育理念

- 放課後の生活を安全に守り、基本的な生活習慣の指導や学習の習慣づけの援助を行う
- 子ども同士共同しながら生きる力を育む

②教育方針

1. 生活の流れを把握し、リーダーを中心に子ども主体の活動を行い、コミュニケーション力をつける
1. 正しい生活習慣を定着させる
1. 他律から自律へと成長していく過程を援助する
1. 「早寝 早起き 朝ごはん」を守る

1. 個々の存在を認める

③学年別目標

1～2年生

- 大事なことを聞く力、話題に沿って話し合う態度を身に着ける
- 集団の一員として自分の役割について気づき、適切な行動ができるようにする

3～4年生

- 筋道を立てて話す力、聞く力、話し合う力を身に着ける
- 目的を持って仲間とともにやり遂げる力を育む

④職員配置 学童保育指導員 1名（保育士資格有）

⑤活動内容

- 新型コロナウイルス感染症により学校休校期間はクラブ内での生活が長くなりましたが、活動にメリハリをつけ、いつ学校が再開されても良いように学校生活に近い流れで活動を行いました。
- 6年生のリーダーが中心となり子ども主体の活動を行いました。外で遊べる集団遊びを多くとり入れることでコロナ禍のストレスも発散させるようにしました。
- 新型コロナウイルス感染症拡大当初はマスク不足もあり高学年中心にマスクや巾着袋（マスク入れ）をクラブ内全員の分を縫いました。低学年も興味のある子は縫い方を教えてもらい自分のマスクを縫えるようになりました。
- 園児の中にはなかなかクラスに馴染めない子が増えており、そのような子はクラブの子ども達がいる空間だと落ち着いて遊べるのがわかり、毎日のように来るようになりました。慕ってやってくる園児の遊び相手になることでクラブの子ども達も自己肯定感を高めることが出来ました。
- 保小連携（年長児と交流）今までは主に製作の交流を行ってきましたが室内での活動は密になってしまうため、普段クラスでやっている縄跳びやけん玉などを、発表し合うスタイルでの交流を行いました。年長児に見てもらおうという事で練習にも熱が入り、発表時の拍手や歓声が自信へと繋がり次への挑戦意欲も湧き良い結果となったので、来年度もこのような交流を年長児担任に提案していこうと思います。
- お泊り保育を予定していましたがコロナの影響で残念ながらお泊りは中止となり夕涼み会を行いました。年長児と一緒にスイカ割り、キャンプファイヤーを楽しみました。

⑥家庭との連携

- 毎月、活動内容を報告する「おたより」を配布し、クラブ内の様子を伝えました。感染症対策に関しても、園の取り組みをおたよりで詳しくお知らせしました。
- 子どもの様子で気になることは直ぐに保護者と連絡を取り合い、必要に応じては個人面談を行いました。家庭内や学校で問題行動をおこしている男児の保護者が相談に来られ園でも出来ることは協力しその男児の様子は常に見守るようにしています。

⑦人材育成

- 職員の資質向上及び専門性の向上を図るため、園内研修・Web研修に参加しました。

⑧地域貢献

- 園庭開放の受付の手伝い、出張保育では一緒に遊ぶことで参加者に喜んでいただきました。
- 学校が長期休みの時は瓢箪山公園や園の周りの清掃や草抜きを行いました。

⑨健康・安全

- 子どもの様子で気になることはすぐに保護者と連絡を取り合い早期対応を心掛けました。
- 生活習慣、衛生管理の定着をはかり、コロナ予防に関することも常に子どもたちの地域、学校などと連携をとり、登下校時の安全確保を行い、下校時のトラブルはその日のうちに子ども達と話し合い、保護者にも連絡し翌日からの改善に努めました。
- 警報発令時、保護者や学校と連携し子どもの所在確認と安全確保を行いました。
- AEDの使い方、応急処置、不審者対応、さすまたの使い方など園内研修に参加しました。

⑩苦情解決

- 「苦情申し出窓口」（指導員が受付担当者）、「御意見箱」を玄関に設置し、個人面談、連絡ノート、アンケートなどで保護者の意見を聞き、いただいた意見や要望については概ね24時間以内に回答し、活動に反映させます。尚、回答については掲示板や広報に掲示をするようにしていますが、今年度はクラブに関しての苦情はありませんでした。

⑪リスクマネジメント

- 施設内や利用する公園、学校までの道中の危険箇所を子どもたちと見つけ、なぜ危険なのか、どのように回避すればよいのかを自分たちが意見を出し合い考えました。
- 怪我や事故には十分に注意をはかりました、医療機関へ受診するような怪我はありませんでした。
- 災害時の避難方法、避難場所、備蓄品などについて子どもたちが実際に体験し災害時の行動について学びました。